

発掘調査報告第41集

駒ヶ根市立東中学校通学路及び駐車場造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

きつね く ぼ  
狐 久 保 遺 跡  
(第4次発掘調査)

2009.3

長野県駒ヶ根市教育委員会

発掘調査報告第41集

駒ヶ根市立東中学校通学路及び駐車場造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

きつね く ぼ  
狐 久 保 遺 跡  
(第4次発掘調査)

2009.3

長野県駒ヶ根市教育委員会



上空より

## 例　　言

- 1 本書は、駒ヶ根市立東中学校通学路及び職員駐車場造成工事に伴う発掘調査にかかる報告書である。調査は、駒ヶ根市教育委員会が組織する駒ヶ根市埋蔵文化財発掘調査会が実施した。
- 2 遺構・遺物の実測、製図、写真撮影、本報告書の執筆・編集は田村巴があたった。
- 3 遺構番号は第三次調査の続きとし、第10号住居址からとする。ただし昭和38年東中学校建設の際調査区域南の切土断面で確認された第2号住居址については、位置関係から第10号住居址東に接し検出された住居址に付番した。
- 4 遺構・遺物の縮尺は、各図に示してある。
- 5 発掘調査及び報告書作成に当たっては多くの方々から助言・ご指導を賜った、ここに記して謝意としたい。
- 6 本調査に係る関係資料及び出土遺物は、駒ヶ根市立博物館に保管している。

# 目 次

卷頭図版

例 言

目 次

図版目次

## 第1章 調査の経緯

1 事業の経過 .....	1
2 発掘調査の組織 .....	1

## 第2章 遺跡の環境

1 遺跡の立地 .....	2
2 歴史的環境・周辺の遺跡 .....	4

## 第3章 発掘調査

1 調査の経過 .....	7
(1) 過去の調査 .....	7
(2) 調査概要 .....	9
(3) 遺構及び遺物 .....	13

第4章 おわりに .....	14
----------------	----

狐久保遺跡住居址・竪穴址一覧表

## 図版目次

### 1. 插図目次

第1図	長野県駒ヶ根市位置図	1
第2図	狐久保遺跡位置図	3
第3図	狐久保遺跡・周辺遺跡位置図	6
第4図	狐久保遺跡調査概要図	8
第5図	狐久保遺跡第4次調査遺構配置図	11
第6図	狐久保遺跡住居址分布図	12
第7図	第2号住居址実測図・出土遺物	15
第8図	第10号住居址実測図	16
第9図	第11号住居址実測図	17
第10図	第12号住居址実測図・出土遺物	18
第11図	第13号住居址実測図	19
第12図	第10号住居址出土遺物	20
第13図	第10号住居址出土遺物	21
第14図	第11号住居址出土遺物	22
第15図	第13号住居址出土遺物	23

### 2. 写真目次

巻頭図版上空より

- 1 調査前
- 2 第2号・第10号住居址
- 3 第10号住居址埋甕炉・遺物出土状況
- 4 第11号住居址・埋甕炉
- 5 第12号住居址・埋甕炉
- 6 第13号住居址・土器出土状況
- 7 第13号住居址埋甕炉・遺構検出状況
- 8 遺構検出状況
- 9 第10号住居址埋甕炉・出土土器
- 10 第10号住居址出土土器・11号住居址埋甕炉
- 11 第12号住居址埋甕炉・13号住居址埋甕炉
- 12 第13号住居址出土土器
- 13 出土石器

# 第1章 調査の経緯

## 第1節 事業の経過

駒ヶ根市立東中学校通学路及び駐車場造成工事に伴い保護協議を実施し、駐車場用地に関しては、造成による影響が遺構面まで及ぶ恐れがあるため、発掘調査を実施し記録保存をすることとなった。調査は駒ヶ根市埋蔵文化財発掘調査会が行うこととなり、平成20年8月7日から現場調査を開始し、9月30日に終了した。その後遺物整理、図面整理等の報告書刊行作業を行い、報告書の刊行もって事業を完了した。

## 第2節 発掘調査の組織

### (1) 駒ヶ根市埋蔵文化財発掘調査会

顧問 片桐成登（駒ヶ根市教育委員長）平成20年9月30日まで

諫訪 博（　　〃　　）平成20年10月1日から

会長 中原稻雄（駒ヶ根市教育長）

理事 滝澤修身（教育委員会教育次長）

〃 新井徳博（文化財審議会会长）

〃 吉澤康道（　　〃　副会長）

〃 竹内慈一（　　〃　委員）

〃 下島大輔（　　〃　委員）

〃 小川清美（　　〃　委員）

〃 田中清文（　　〃　委員）

〃 片桐利和（生涯学習課長）

監事 氣賀澤進（駒ヶ根市会計管理者）

〃 小池金義（駒ヶ根郷土研究会会长）

幹事 村澤秀樹（生涯学習課生涯学習係長）

〃 田村 巴（　　〃　生涯学習係）



第1図 長野県駒ヶ根市位置図

## 第2章 遺跡の環境

### 第1節 遺跡の立地

駒ヶ根市は長野県の南部、伊那谷のほぼ中央に位置し、市の中央を諏訪湖より注ぐ天竜川が流れている。天竜川から西側の木曽山脈までが竜西で赤穂地区となり、天竜川から東の伊那山脈までが竜東で東伊那地区と中沢地区になる。竜西地区の北は太田切川で宮田村に、南側は中田切川で飯島町に接している。西側は木曽山脈を境に大桑村に接している。竜東地区は北から南に向かい火山峠を境に伊那市富県に、伊那山脈を境に伊那市長谷地区、大鹿村に接し、折草峠を境に中川村にそれぞれ接している。

狐久保遺跡は、中央高速自動車道駒ヶ根ICより東へ6km程の、駒ヶ根市立東中学校の敷地を含むその北側一帯、東伊那区伊那から中沢区原にわたる天竜川左岸段丘上に所在している。天竜川の氾濫原からの比高は45m程であり、緯度経度は北緯35度44分19秒、東経137度58分46秒、標高は632m程を測る。

今回の調査対象地域の北側には、第三次調査を実施した道路（殿村北線）が走り、北側の東伊那から中沢に抜けるこの道路は、この付近で東に大きく向きを変え中沢原地区へ続いている。調査地南側に隣接する東中学校敷地は、造成のため切土となっており標高は622～624m程である。さらにその南は天竜川へそぞく新宮川の深い渓谷となっている。調査地区を含む一帯は、かつてこの地域の主要産業であった養蚕業を支えた桑畑として利用されていた。桑の葉は東中学校の校章のデザインにも用いられている。多くの桑の木はその役目を終え抜根されたが、駐車場の造成範囲には桑の木が遺され高く伸び密生している。東側に隣接する畑ではコンニャクが栽培されている。また、西側は果樹園として利用されている。

地質基盤は、東の赤石山脈と伊那山脈の間を中央構造線が走っており、市域は基本的に領家帯に属する岩盤から成っている。当地区の下層には、伊那山脈から西の天竜川へそぞく大小河川により運ばれた扇状地疊が厚く堆積し、その上に御岳山噴火物を主とするテフラ堆積物が覆っている。

テフラ質堆積物は、御岳火山灰層の所々に軽石層あるいはスコリア層を挟む形で堆積し、下部には軽石層である御岳第1テフラ (0m-Pm1) が厚く堆積している。東伊那地区は上伊那地方でも最もこの0m-Pm1が厚く堆積している地域として知られ、その厚さは2m以上にも及び、昔は各所でこの土が白粘土化した白土（カオリン）の採掘が行われており、東中学校グラウンド付近でも採掘されていたということである。

遺跡の所在する段丘面は、この0m-Pm1以上のテフラ層をのせており、低位段丘面は新期のテフラ層のみをのせている。テフラ層より上部は10cm程度の斬位層を含んで40～50cm位の厚さの黒色の表土となるが、土地利用の状況により必ずしも模式的な層位とはなっていない。



第2図 狐久保遺跡位置図 ( $S=1:50,000$ )

## 第2節 歴史的環境・周辺の遺跡

東伊那地域は、伊那山脈の前山から天竜川に向かって緩やかに下る南西に開けた斜面に展開しており、日射条件が良く古くから遺跡の存在が知られていた。大正末年発刊の「先史及び原始時代の上伊那」にも、多くの遺跡が紹介されている。また、中世から戦国時代にかけては、台地の突端部分を利用し多くの「城館」が造られている。以下、年代順に当地区の遺跡を概観していきたい。(第3図)

先土器時代の遺跡は、地区内では確認されていない。

縄文時代の遺跡は、当孤久保遺跡（1）にも遺物散布が認められるほか、中期を中心に多くが確認されている。

早期の押型文土器が反目南（4）から検出されている。

早期末から前期にかけての遺跡は、殿村（13）で12軒、上塩田（11）で1軒が確認されている。

前期末から中期初頭としては、反目（5）で住居址が検出されている。

伊那谷では縄文中期の後半に、遺跡数が急激に増加し大規模な集落が営まれるようになる。反目（5）の調査された縄文時代の住居址59軒の内訳は、中期中葉に属する住居址が17軒であるのに対し、中期後葉は38軒となっている。そのほか山田（9）、殿村（13）、大久保北（10）で中期後葉期の住居址が確認されている。

後・晩期になると遺跡数が極端に減少している。青木北（12）で後期の環状配石群が、上塩田（11）からは晩期の配石址が発見されている。

弥生時代の遺跡は、市域の他地区に比して当地区の遺跡数は多く、大きな集落を営むものも確認されている。

丸山（2）、遊光（3）、で住居址が、殿村（13）では、住居址のほか方形周溝墓が検出されている。

反目（5）では、住居址が17軒発見され当遺跡と並び概期を代表する遺跡である。反目の北には垣外上（6）や住居址1軒が調査された善込（7）がある。この東には、住居址10軒と壺棺墓が1基確認された、栗林神社東（8）がある。また、南の反目南（4）では住居址2軒と方形周溝墓3基、及び壺棺墓1基が検出されており注目されている。

以上当地区の弥生時代の遺跡は、いずれも後期に属しており市域他地域においても同様である。

古墳時代から奈良・平安時代にかけての遺跡、集落遺跡としては遊光（3）、反目南（4）、反目（5）、上塩田（11）がある。東伊那地区の古墳に関しては、柏原古墳、桃山古墳など円墳が3基以上あったと云われているが、既に全て消滅している。

天竜川の左岸は、その立地条件を活かした中世の城館が多い。天竜川に面した突端部を利用して造ったものとして、原城（14）、稻村古城（15）、稻村城（16）、遊光城（17）、高田城（18）、大久保城（19）、ある。これらの城館より奥まった扇央部の段丘面の突端部を利用しているのが、城村古城（20）、城村城（21）、青木城（22）である。原城は中沢地区に所在する。

城館の多さとともに中世期の石造物の存在が注目されている。大久保城（19）の北側の蓮台場には、応永期の宝篋印塔が3基、六地蔵石幢が1基あり、ここから500mほど北東に位置する下塙田には、平安末から鎌倉初期と考えられる五輪塔がある。

また、遊光（3）では、15世紀末と考えられる住居址において、炭化材が良好な状態で検出された。土をかぶせた陸屋根式構造の可能性も論じられ、貴重な例である。

山田（9）遺跡の西方には山田の富士塚と呼ばれる、上伊那でも最大級となる塚と溜め池が良好な状態で遺されている。江戸時代に最盛期を迎えた富士信仰の遺構である、



- |                               |                             |                    |
|-------------------------------|-----------------------------|--------------------|
| 1. 狐久保 (縄文・弥生)                | 9. 山田 (縄文)                  | 17. 遊光城 (中世)       |
| 2. 丸山 (縄文・弥生)                 | 10. 大久保北 (縄文・弥生・平安)         | 18. 高田城 (中世)       |
| 3. 遊光 (縄文・弥生・古墳<br>平安・中世)     | 11. 上塙田 (縄文・平安・中世)          | 19. 大久保城 (中世)      |
| 4. 反目南<br>(縄文・弥生・古墳<br>奈良~平安) | 12. 青木北 (縄文・弥生<br>平安・中世・近世) | 20. 城村古城 (中世)      |
| 5. 反目<br>(縄文・弥生<br>古墳 奈良~平安)  | 13. 殿村 (縄文・弥生<br>奈良・平安)     | 21. 城村城 (中世)       |
| 6. 墓外上<br>(縄文・弥生<br>古墳・平安)    | 14. 原城 (中世)                 | 22. 青木城 (縄文・平安・中世) |
| 7. 善込 (縄文・弥生・古墳)              | 15. 稲村古城 (中世)               | 23. 箱叠 (平安・中世)     |
| 8. 栗林神社東 (縄文・弥生)              | 16. 稲村城 (中世)                |                    |

第3図 狐久保遺跡・周辺遺跡位置図 (S=1:25,000)

## 第3章 発掘調査

### 第1節 調査の経過

#### 1 過去の調査について

狐久保遺跡は、過去3回にわたり調査が実施されている。

##### (1) 第1次調査（昭和24～26年）

東伊那の合併前における旧村の名称は伊那村であり、殿村、狐久保、山田及び丸山の各遺跡は総称して伊那村遺跡と呼ばれていた。この遺跡は、戦後間もない昭和24年から26年にかけて、旧伊那村が独自で調査を実施している。塩尻の平出遺跡の調査が実施されていた頃であり画期的である。この時の調査が狐久保遺跡の第1次調査にあたり、弥生時代後期の1～二号の4軒の住居址が検出されている。口号は中学校敷地内に位置を移し復元されている。

##### (2) 第2次調査（昭和38年）

市立東中学校の造成工事に伴い、昭和38年12月に緊急発掘調査が行われた。第1～7号の竪穴址が確認されている。ただし2号と第5号址については、切土断面に露呈したもので、発掘は行われず位置のみの記録である。また第6号については、3×5mと小型で柱穴及び炉が存在せず、住居址ではなく倉庫的なものと考えられている。

##### (3) 第3次調査（平成8年）

今回の調査地の北側、殿村北線の道路改良工事に伴い調査が行われた。道路用地に係る部分的な調査であったが、南側に隣接する畑までに及ぶ第8・9号の2軒の住居址が検出された。

過去3回の調査で確認された遺構は、弥生時代後期に属しており、検出遺構件数からも当遺跡はこの地域及び市域の該期を代表する重要な遺跡である。

#### 【参考文献】

- ・友野良一他「長野県上伊那郡伊那村遺跡第一次調査概報」「信濃」第三巻第六号 1951年
- ・藤島玄治郎・友野良一「長野県上伊那郡伊那村遺跡復元住宅の考察」「信濃」第三巻第十一号 1951年
- ・友野良一他「長野県上伊那郡伊那村遺跡第二次調査概報」「信濃」第四巻第十一号 1952年
- ・友野良一「駒ヶ根市東伊那狐久保遺跡概報」「伊那路」第8巻第9号 1964年
- ・友野良一・北澤武志「狐久保遺跡（第3次発掘調査）」駒ヶ根市教育委員会 1997年



第4図 狐久保遺跡調査概要図 ( $S=1:2,500$ )

## 2 調査概要

今回の調査は、東中学校の通学路及び職員駐車場整備に伴うもので、通学路については概ね現況通路を使用し、駐車場進入路に関しては掘削を伴う造成は実施されないため調査から除外し、それ以外の車両駐車利用範囲である約800m<sup>2</sup>について調査を実施することになった。

調査は、桑の木の伐採、抜根後、重機により表土を剥ぎ取り、その後ジョレンがけにて遺構の確認に努めた。

第4次調査となった今回の調査では、弥生時代後期の住居址5軒を検出している。

なお、遺構番号は第1次調査で「イ～二号」が使用されている。第3次調査において、第2次調査の「一～七号」を改め「1～7号」とし新たに発見された住居址に8・9号を付番する整理がなされているため、これを考慮し今回検出された住居址は、第10号住居址からとするが、カタカナ番号が残されているため遺構番号が当遺跡での遺構数とはならない。

また、第2次調査で切土断面に確認され、未調査であった第2号住居址については、今回の調査で検出された第10号住居址及び東に検出された住居址が該当するものと考えられるため、明確な位置関係を断定する材料はないが、第10号住居址東に隣接の遺構を、第2号住居址として整理した。

したがって、今回の調査で検出された遺構の番号は、第2号住居址及び第10号～第13号住居址である。

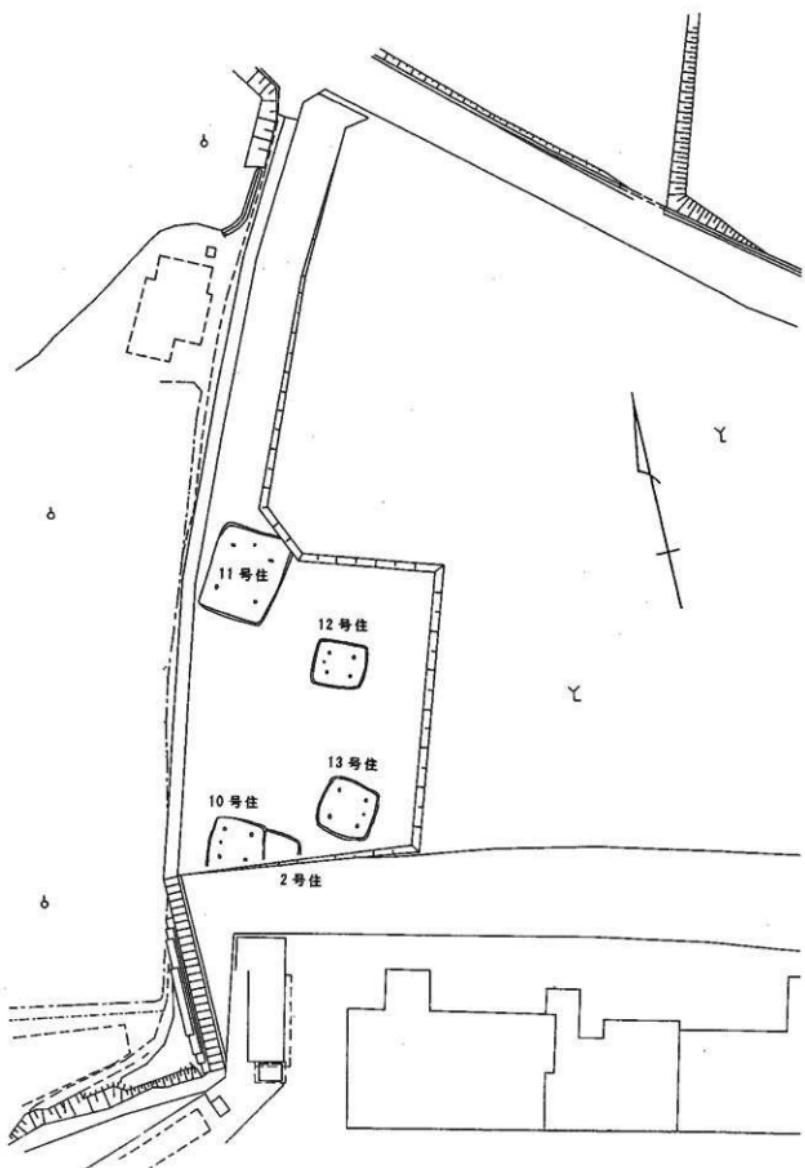
## 3 発掘調査作業経過

- 8月 7日 器材搬入。
- 8月 8日 重機により表土剥ぎ取り。
- 8月11日 引き続き重機による表土剥ぎ取り。遺構確認。
- 8月12日 調査区域南西部よりジョレンがけにより遺構検出。
- 8月13日 南西角の落ち込みを確認、精査する。
- 8月14日 昨日に引き続き掘り下げ。(10号)
- 8月22日 調査区域北、駐車場進入路南端部付近に広範囲で落ち込みを確認、こちらから精査する。
- 8月25日 引き続き掘り下げ。範囲が広く判然としないため、南北方向に9m、東西方向に5.3mトレチを設定し掘り下げる。2本のトレチとともに床面を検出する。(第11号)
- 8月26日 トレチ周辺部へ範囲を広げ掘り下げる。
- 8月27日 北・東・南で部分的に壁を検出。
- 8月28日 西側壁検出に努めるも降雨。
- 9月 2日 西側壁全検出。床面、埋甕炉検出。

- 9月 3日 第11号住居址床面精査、柱穴検出。清掃写真撮影。
- 9月 4日 第11号住居址東、落ち込み精査（第12号）
- 9月 5日 第12号住居址床面精査、柱穴、埋甕炉検出。
- 9月 8日 第12号住居址清掃、写真撮影。
- 9月 9日 調査地区東南角付近の落ち込み精査。床面検出。（第13号住）
- 9月10日 第13号住居址掘り下げ。埋甕炉検出。
- 9月11日 第10号住居址掘り下げ。第13号住居址精査、清掃。東中学校1学年体験授業。
- 9月13日 第10号住居址床面精査。東隣接地精査（第2号住居址確認のため）、第10号住居址床面の上段に新たな床面を検出。（第2号住）
- 9月14日 第10号住居址、第2号住居址床面精査、清掃、撮影。
- 9月15日 測量。第2号住居址貼床部除去。清掃、撮影。
- 9月16日 全体撮影、埋甕炉断面。
- 9月17日 全体測量。
- 9月29日 埋甕炉取り上げ。
- 9月30日 器材搬出整理。



東中学校生徒発掘体験



第5図 狐久保遺跡第4次調査造構配置図 ( $S=1:500$ )



第6図 狐久保遺跡住宅址分布図 (S=1:2,000)

## 第2節 遺構と遺物

### 1 第2号住居址（第7図、図版2）

**遺構** 本住居址は、第10号住居址の東側に接し検出された。南は中学校の敷地で切土されており極めて部分的な範囲の調査となった。規模プラン等は判然としない。壁高は東が40cm、北が50cm前後である。西に隣接する第10号住居址の床面から本住居址の床面は最大で45cm上位に位置しており、西に向かい傾斜している。10号住居址に貼床しているが検出できたのは限られた範囲となった。床は、ロームブロックが確認されるもののゆるくはっきりしない、柱穴は確認されていない。

**遺物** 遺物は少なく、土器片が少量出土したのみである。

### 2 第10号住居址（第8・12・13図、図版2・3・9・10）

**遺構** 本住居址は、調査区域の南西角付近に位置し、東に接する第2号住居址同様南は中学校敷地造成時に切土されている。規模は東西方向で5.7mを測り、プランは隅丸方形で、長軸方向はN-64°-Wである。壁高は西で53cm、北では76cmを測る。床面はよく締まっている。

**遺物** 遺物は覆土上層より床面まで土器片が多く出土している。5は埋甕炉で胴半部から底部を欠いている。甕が多く1・2・3・5・7は2段の櫛描波状文、19・22は波状文の下位に短線斜走文、20は横走文が施文されている。8・21の壺は、頸部から外湾しながら外反し、口端部が折立する受口口縁で、端部が平端面となり縦の刻み目を付け、頸部には櫛描の波状文が付されている。24は台付甕の脚台部、23は高壺の中空の脚部である。25の底部には木葉痕がある。

石器は、石斧（26）、石錐（27）、石鍬（28）、抉入石包丁（30）が出土している。

### 3 第11号住居址（第9・14図、図版4・10）

**遺構** 本住居址は、調査区の北西角に位置しており、東側に第12号住居址がある。

プランは隅丸長方形で規模は9.3m×7.7mを測る。当該遺跡最大規模の大型住居址である。長軸方向はN-30°-Eである。壁高は北46cm、南で75cm程度となる。床は全体に堅くタタキ締められており、周溝が廻っている。東壁面には、当該遺構のものかは判然としないがほぼ等間隔に、柱穴と考えられる痕跡が認められており、建物構造への関わりも想定される。

**遺物** 規模の割に遺物は多くない。2・5・18・19・22はS字状口縁の台付甕である。3は無文の埋甕炉で、口縁部及び胴下半部を欠いている。

石器は28が有孔の磨製石鏃で、孔部より基部にかけて欠けている。29は抉入打製石包丁、30の抉入編物石が出土している。

### 4 第12号住居址（第10図、図版5・11）

**遺構** 本住居址は第11号住居址の東、第13号住居址の北に位置している。規模は東西5.3m、南北4.7mを測り、プランは隅丸方形で長軸方向はN-70°-Wである。

壁高は西27cm、東で46cmを測る。床は主柱穴を結ぶ線の外側はしっかりとしているが、内側及び埋甕炉の奥はゆるくなっている。

**遺物** 遺物は少なく、1は埋甕炉で胴央部のみである。

### 5 第13号住居址（第11・15図、図版6・11・12）

**遺構** 本住居址は第2号及び第10号住居址の東方、第12号住居址の南、調査区域の東南角付近に位置している。規模は東西で5.9m、南北5.7mを測る。プランは隅丸方形で長軸方向はN-55°-Wである。壁高は50cm前後である。

床面はタタキがよく残りしっかりとしている。

**遺物** 1は埋甕炉で口縁部及び胴下半部を欠いている。2は南西角で検出された甕で底部を欠く。胴上半部に最大径を持ち、文様は2段の櫛描き波状文で、頸部から胴上半部にかけ炭化物が付着している。内面は丁寧なヘラミガキで調整されている。4は小型の鉢で口縁部の一部を欠くがほぼ完形である。底部が多く出土している。

石器は、25の有肩扇形状石器が出土している。

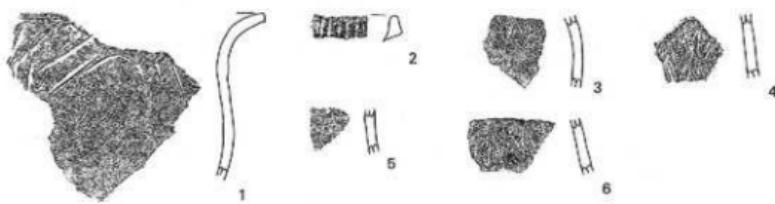
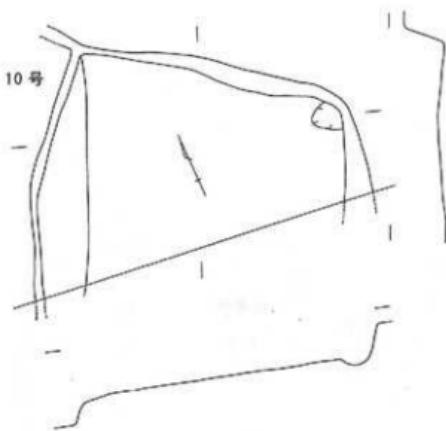
## 第4章 おわりに

今回の第4次調査では、過去3回の調査と同様に弥生時代後期に属する住居址5軒を検出した。これにより、狐久保遺跡では16軒の住居址と竪穴址1基が検出されたことになる。

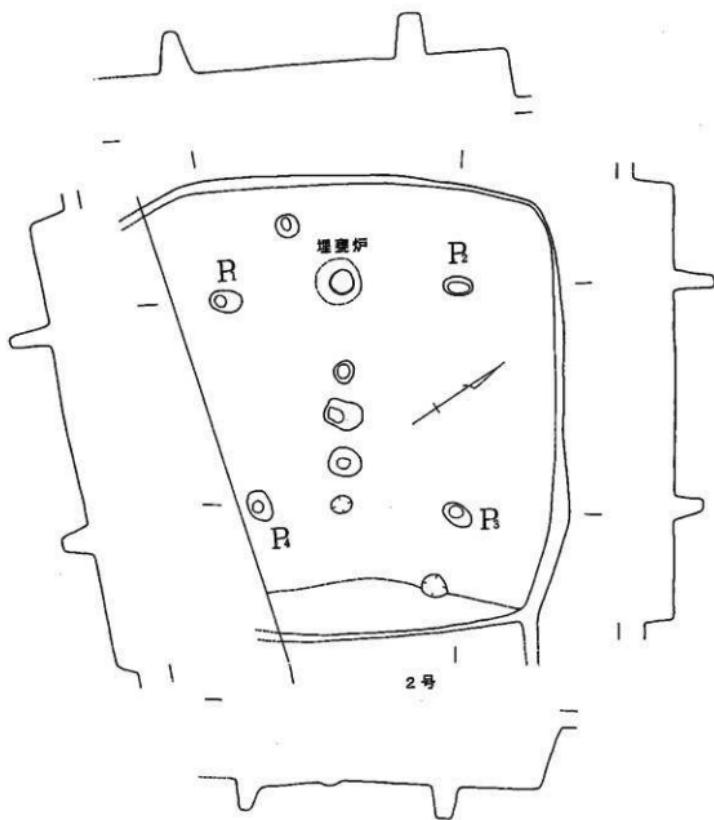
狐久保遺跡でのこれまでの検出遺構については、第3次調査報告書（1997）にまとめられている。検出された5軒の住居址のうち、第2号住居址を除く4軒において埋甕炉が確認されている。これまでの調査でも住居址内の埋甕炉の埋設位置は、主柱穴2本の中間に位置しているものが多く、柱穴を結んだ線上及びその内側、外側（壁より）のいずれにあるかによって区分されている。今回の4軒は全て柱穴線上の外側に設置されており、1号、口号、8号住居址と同様である。

住居址の形状としては、第2号住居址は不明である。第10、12、13号住居址が隅丸方形であり、第12号住居址は辺が直線的であるが、第10、13号住居址ではやや丸みを帯び外に張り出している。第11号住居址は9.3m×7.7mの隅丸長方形である。当遺跡でこれまでに確認されている第5号住居址の8.5m、第9号住居址の7.8mの規模を超える非常に大型の住居址であり遺構の性格が問われるところであるが、遺物もそれほど多く出土しておらず解明には至らない。

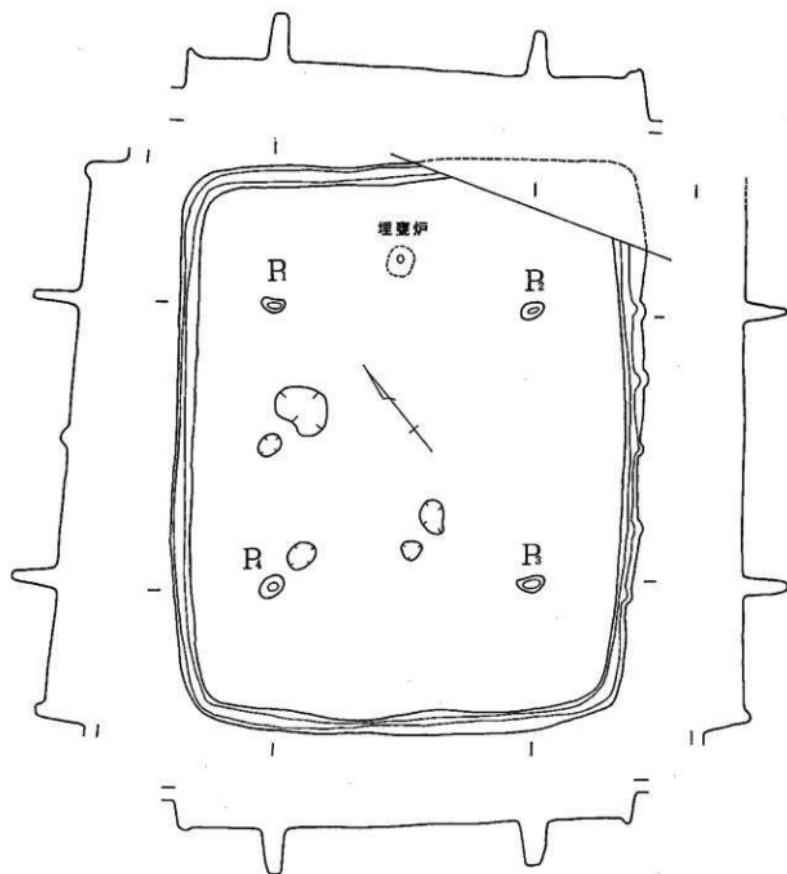
狐久保遺跡の範囲はこれまでの4回の調査において毎回遺構が検出されており、遺構密度の高い遺跡であり、当該地域及び市域においても弥生時代を代表する遺跡である。未調査部分も残されており、遺構の残存の可能性が高く今後も注意が必要である。



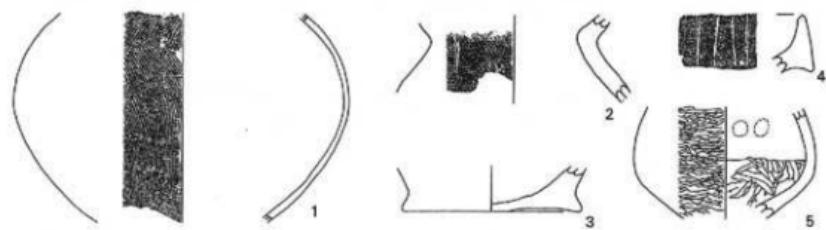
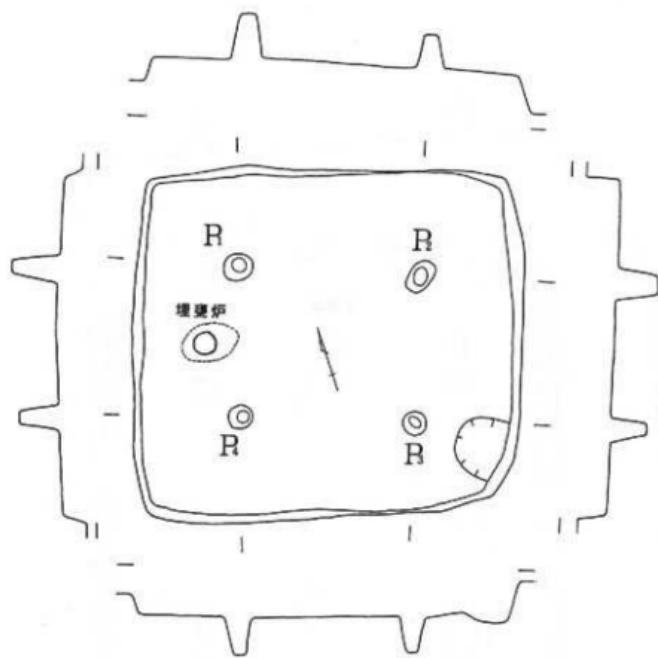
第7図 第2号住居址実測図 ( $S=1:60$ )・出土遺物 (1/3)



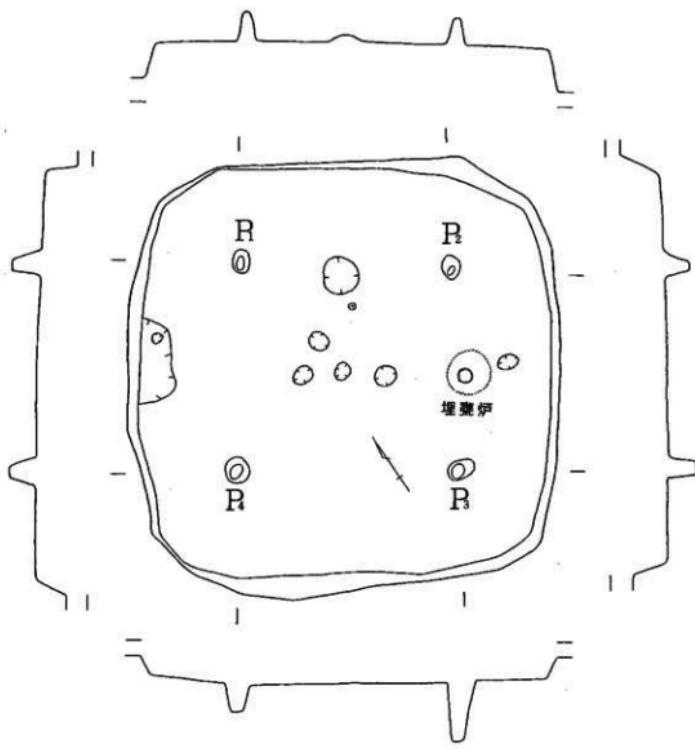
第8図 第10号住居址実測図 ( $S = 1 : 60$ )



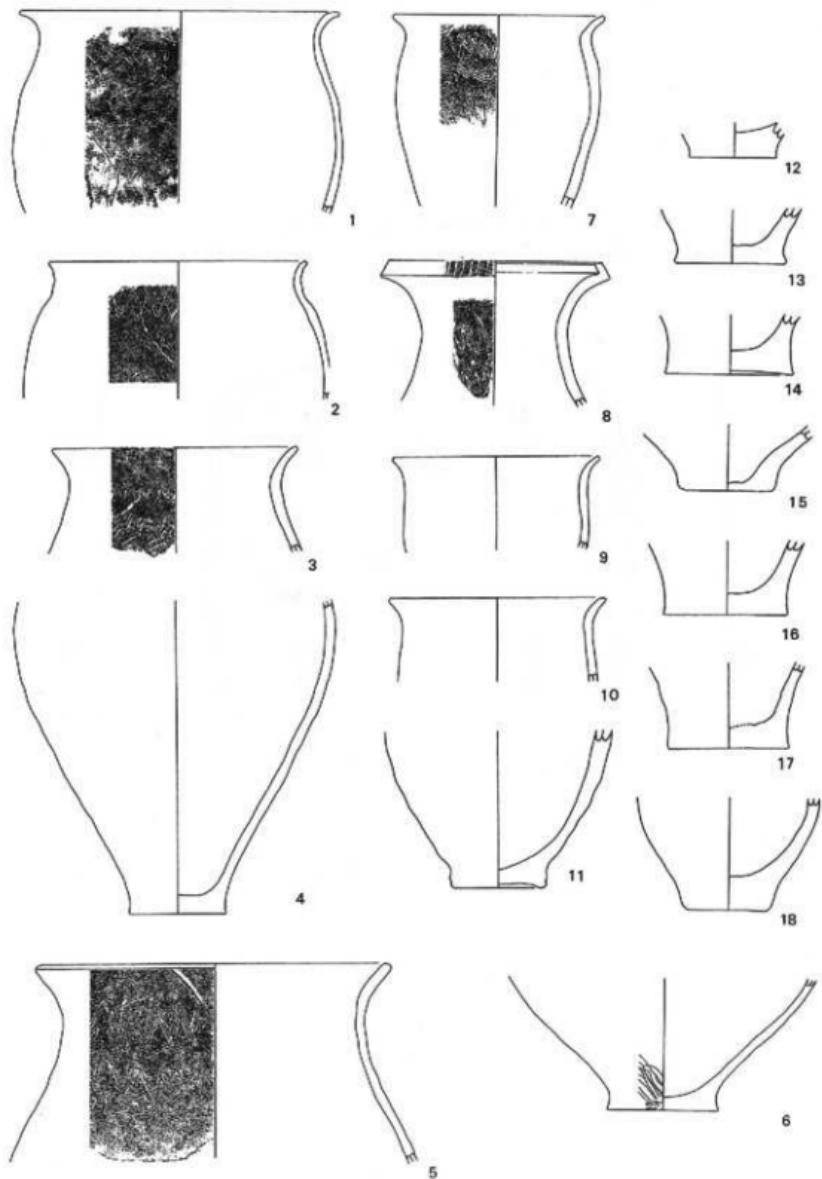
第9図 第11号住居址実測図 (S=1:80)



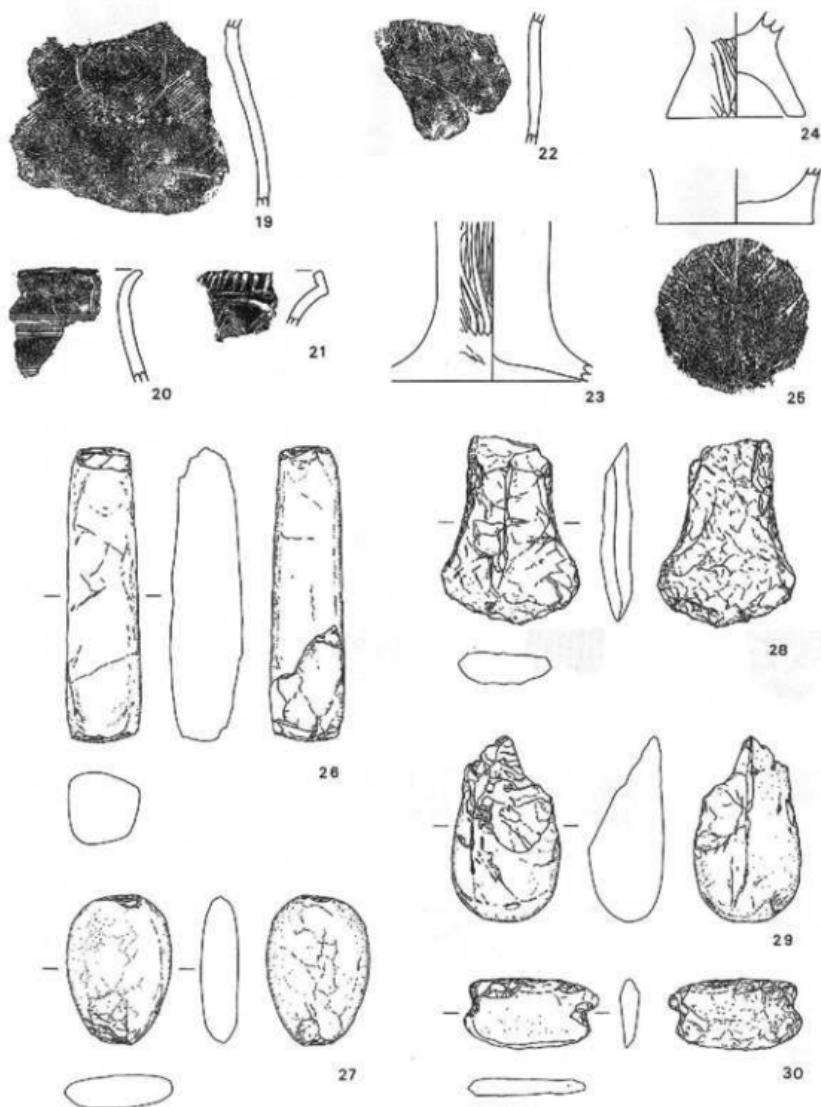
第10図 第12号住居址実測図 ( $S=1:60$ )・出土遺物 (1は1/4、その他は1/3)



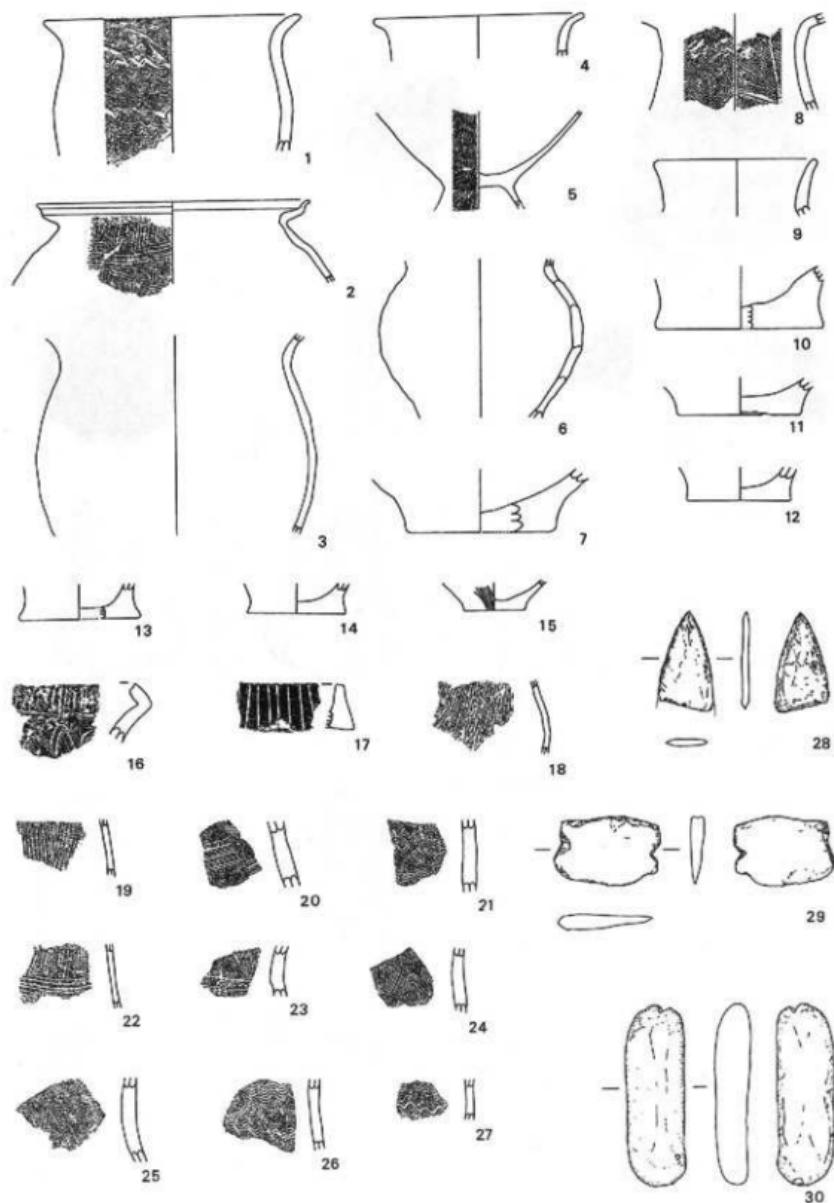
第11図 第13号住居址実測図 (S=1:60)



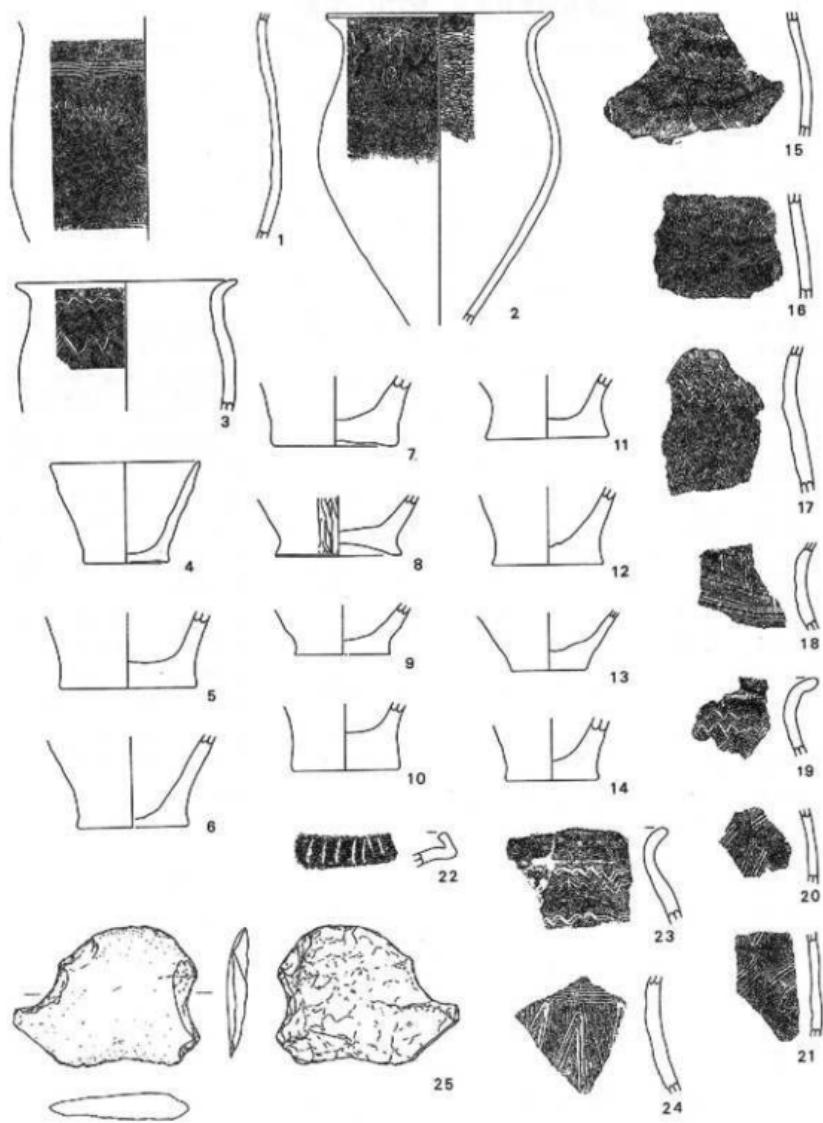
第12図 第10号住居址出土遺物 (1～10は1/4、その他は1/3)



第13図 第10号住居址出土遺物 (1/3)



第14図 第11号住居址出土遺物 (3は1/4、その他は1/3)



第15図 第13号住居址実測図 (1・2は1/4、その他は1/3)

狐久保遺跡住居址・竪穴址一覧表

遺構名	平面形	主軸方向	規模	主柱穴数	炉形態(位置)	備考
イ号住居址	隅丸方 (外へ張る)	N-66°-W	4.5×4.1	4	埋甕炉 2 (外1・住居中央1)	住居中央部の炉は焼土を伴わず炭のみ。土器少量。床固い。
ロ号住居址	隅丸方 (外へ張る)	N-28°-W	6.0×4.0	4	埋甕炉 1 (外)	打製石包丁、土器少量出土。床固く、小凹み多くある。
ハ号住居址	隅丸方 (外へ張る)	S-58°-E	4.2×3.8	4	石組埋甕炉 1 (内)	中央付近に径55cmの楕円形ピット。土器多く、鉄片も出土。
二号住居址	不明	不明	-×(4.0)	不明	不明	白土探掘断面に発見。土器少量出土。床・壁に小ピット。
第1号住居址	"	"	不明	(1)	"	造成断面で発見。土器集中箇所あり。柱穴から壇上部出土。
第2号住居址	"	"	"	不明	"	第2次調査造成断面で発見。第4次調査、第10号住居址に貼床。土器少量。
第3号住居址	"	"	-×6.3	"	"	造成断面で発見され一部の調査のみ。
第4号住居址	" (直線的)	(N-16°-W)	-×5.0	(2)	埋甕炉 1 (線上)	造成断面で発見され北半のみ調査。多量の炭化材出土。
第5号住居址	"	不明	8.5×-	不明	埋甕炉 1 (位置不明)	造成断面で発見され一部の調査のみ。
第6号住居址	隅丸方 (直線的)	不明	5.0×3.0	なし	なし	柱穴・炉なく、内部から木炭が多量に出土。深さ等不明。
第7号住居址	" (直線的)	(N-15°-E)	4.9×4.8	4	埋甕炉 1	中央縦に小ピット2有。炭化材出土。土器数十片と石錘。
第8号住居址	不明 (外へ張る)	(N-31°-E)	-×6.0	(2)	埋甕炉 1 (線上)	床は外区に固い部分あり。遺物は多く、土製紡錘車出土。
第9号住居址	不明 (直線的)	(N-37°-E)	7.8×-	(2)	不明	壁際に小ピットが並ぶ、大規模な住居址。石製紡錘車出土。
第10号住居址	不明 (外へ張る)	N-64°-W	5.7×-	4	埋甕炉 1 (外)	第2住居址が貼床。
第11号住居址	隅丸長方形	N-30°-E	9.3×7.7	4	埋甕炉 1 (外)	検出住居址最大規模。周溝
第12号住居址	隅丸方 (直線的)	N-70°-W	5.3×4.7	4	埋甕炉 1 (外)	床面柱穴内軟弱
第13号住居址	隅丸方 (外へ張る)	N-55°-W	5.9×5.7	4	埋甕炉 1 (外)	

注 1) 未調査住居址を除き時期は全て弥生時代後期に属する。

2) 主軸方向のカッコ内は推定値であり、参考のために示したが誤差がある。

3) 主柱穴数のカッコ内は調査で確認された現数を示している。

4) 炉位置の外・内・線上は柱穴を結んだ場合の表現である。

『狐久保遺跡(第3次発掘調査)』23頁一覧表追記



北から



東から

図版－2



第2号住居址（北から）



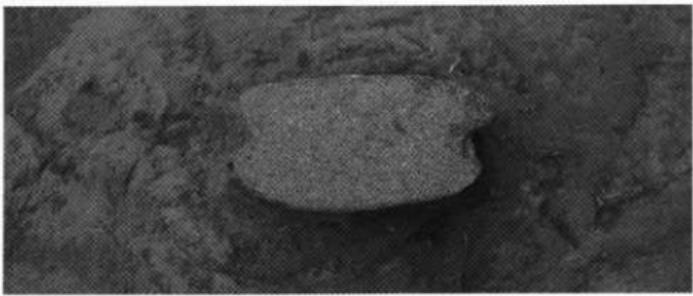
第10号住居址（北西から）



第10号住居址  
埋甕炉



土器出土状况



石器出土状况

図版－4



第11号住居址（北から）



第11号住居址埋壺



第12号住居址



第12号住居址埋墳炉

图版 - 6



第13号住居址



土器出土状况





第13号住居址埋甕炉

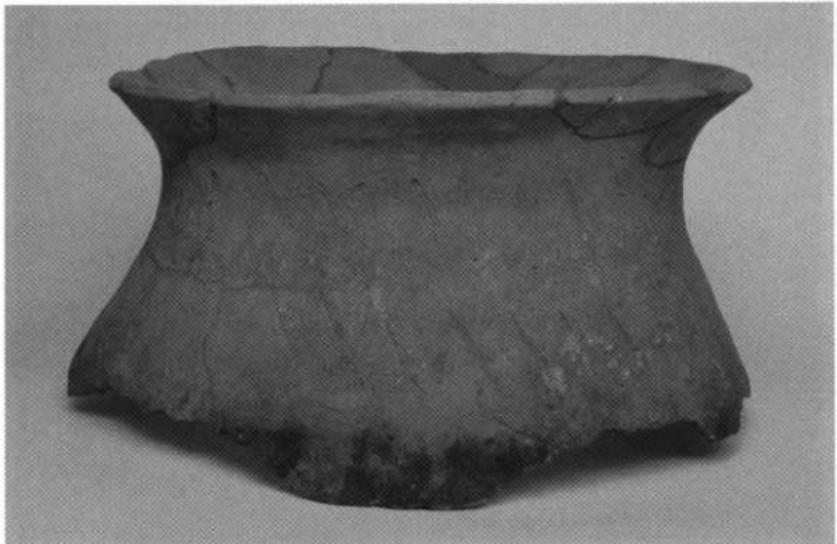


遺構検出状況（北から）

図版－8



遺構検出状況（南西から）



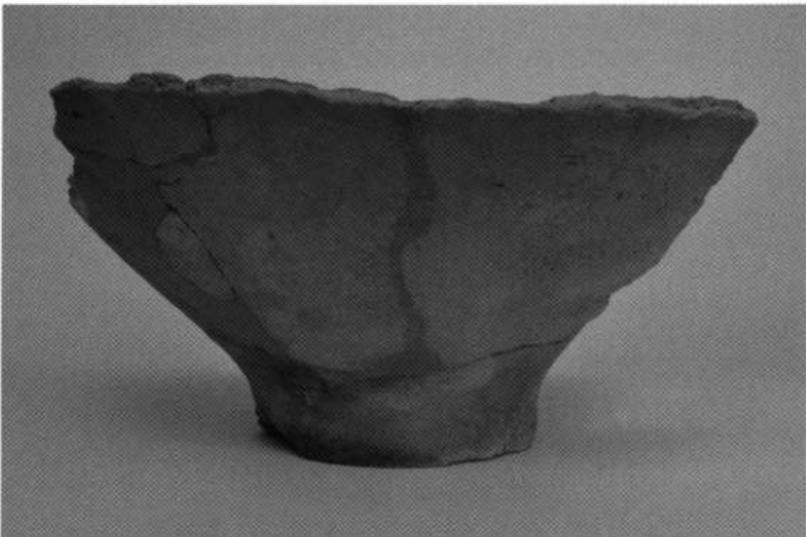
第10号住居址埋甕炉



第10号住居址出土土器



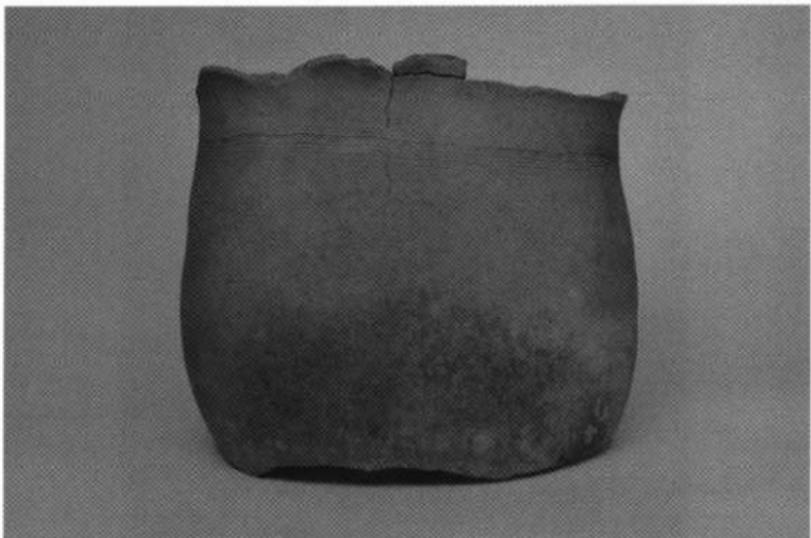
图版 - 10



第10号住居址出土土器



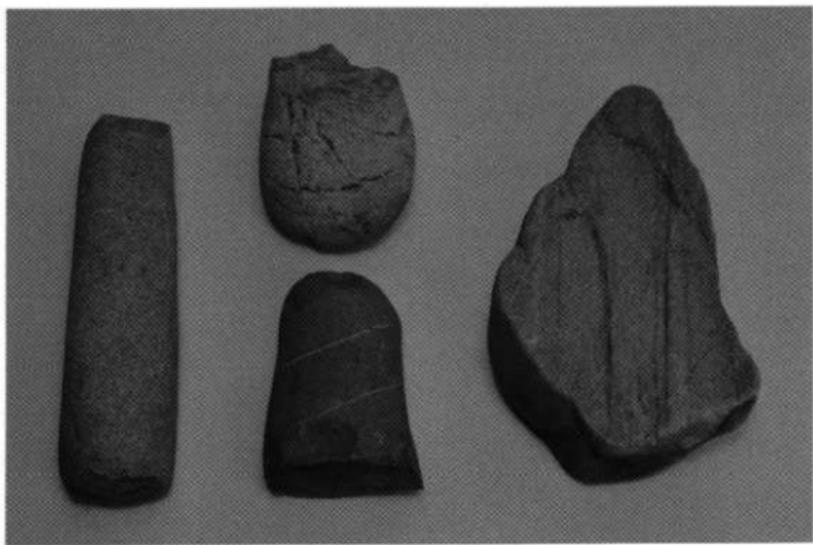
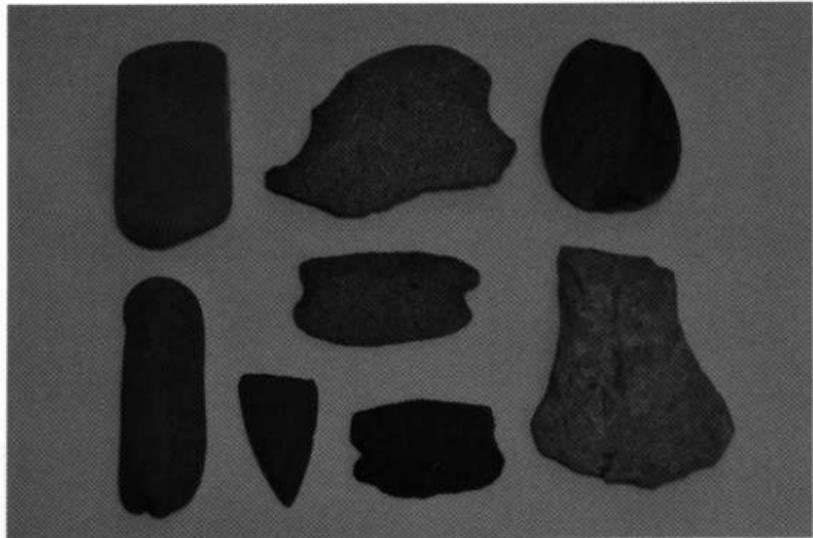
第11号住居址埋甕炉



上：第12号住居址埋甕炉 下：第3号住居址埋甕炉



第13号住居址出土土器



出土石器



報告書抄録

ふりがな	きつねくぼいせき					
書名	狐久保遺跡					
副書名	駒ヶ根市立東中学校通学路及び駐車場造成工事に伴う 埋蔵文化財発掘調査					
シリーズ名称	第41集					
編著者名	田村 巴					
編集機関	駒ヶ根市教育委員会					
所在地	〒399-4192 長野県駒ヶ根市赤須町20番1号					
発行年月日	西暦2009年3月31日					
所収遺跡	所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積
きつねくぼいせき 狐久保遺跡	ながのけんこまがねし 長野県駒ヶ根市 ひがしいな 東伊那	市町村 20210 遺跡番号 92	35度 44分 19秒	137度 58分 46秒	20080808 ~ 20080931	800m <sup>2</sup>
調査原因	駒ヶ根市立東中学校通学路及び駐車場造成工事					
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
狐久保遺跡	集落	弥生時代 後期	竪穴住居址 5軒	弥生土器（後期） 打製石包丁 石鍬 磨製石鏃 石錐 編物石	特になし	

## 狐久保遺跡（第4次発掘調査）

—緊急発掘調査報告書—

平成21年3月31日 発行

編集 狐久保遺跡発掘調査団  
発行 駒ヶ根市教育委員会  
印刷 駒ヶ根市赤穂4295  
(株) 宮澤印刷